

TECH 21

BASS FLY RIG® TECH 21·NYC



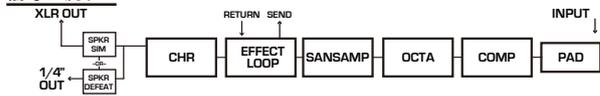
USER GUIDE

1 はじめに

オリジナルの Fly Rig は 2014 年に登場しました。ツアープロからホビープレイヤーまで、あらゆるプレイヤーに愛用され、後にシグネチャーバージョンも展開されました。それぞれの Tech 21 Fly Rig は、ペダルボードをはるかに超える機能と利便性を実現しました。中心となるのはオールアナログの SansAmp で、PA やミキサーへのダイレクトな接続を可能にします。エフェクトには必要なものが揃っており、あなたのお好みのものを追加することもできます。断線、電池、グラウンドループの心配はありません。世界各地でライブをしたり、地元でジャムをしたり、土壇場でセッション…全てこれ一台で完璧です。

4 ご使用の前に

信号の流れ：



ユニティゲインのレベル設定：

ペダルがアクティブかバイパスに関わらず、出音が同じ音量になるようにレベルコントロールを設定します。次のアンプやエフェクターが、通常よりもはるかに大きな信号が入力されたり、小さすぎる信号が入力されたりしないよう調節してください。

EFX セクションのクリップインジケータ：

CHR セクションの Chorus コントロールにはクリップインジケータが組み込まれています。回路が過負荷になると、CHR セクションの Chorus コントロールが赤く点滅して警告します。強めのビッキング時の瞬間的な点滅（ピーク）は問題ありませんが、継続的に点灯する場合は、すべてのエフェクトを OFF にして、ベースを演奏してみましょう。クリップ警告が点灯したままの場合は、In パッドを ON にしてください。改善されない場合は Comp、SansAmp セクションのレベルコントロールを調節してください。

5 COMP セクション

50 年代から 60 年代ごろのコンプレッサーを再現した、暖かく、クリアで、音楽的なコンプレッションを演出します。

COMP：

コンプレッションの量を調節します。ソフトでかろうじてわかるようなものから超コンプレッション、ロングスティンまで幅広く調節が可能です。

LEVEL：

コンプ部の出力レベルを調節します。

6 CHANNEL セクション

CHANNEL：

Drive と Level コントロールのセットを切り替えます。(ドライブ 1 & レベル 1 / ドライブ 2 & レベル 2)

CHARACTER：

下記の二種類のサウンド傾向を切り替えます。

SansAmp Bass Driver DI ()：

ベースマスタイル、SVT スタイルなど、クラシックなベースチューブアンプの音色。

VT Bass DI ()：

アンペグスタイルのトーンに特化し、より中域が豊かになります。

3 接続

ベースアンプとの接続：

標準のエフェクトペダルと同じように、本機をインラインで接続できます。あなたのアンプのプリアンプの影響が強すぎると感じたときは、低レベル入力に接続し、できるだけフラットに設定してください。ほとんどの真空管アンプではサチュレーション（飽和状態）になると、ミッドレンジがカットされる傾向があります。HI と LO が最小で、MID が最大の状態で最もフラットなサウンドが達成されることがあります。

その状態は決して異常ではなく、この状態から好みに合わせて調節することをお勧めします。また、アンプにエフェクトループリターンがある場合は、エフェクトループリターンにプラグインすることもできます。これにより、アンプのプリアンプ全体が無効になり、サウンドをより正確に表現できます。

ダイレクトにレコーディングする：

必要なトーンシェイピングとキャビネットエミュレーションはすべて、ペダルの SansAmp セクションにすでに組み込まれています。本機は、ギターを自動的にローインピーダンスに変換し、通常、ギターを直接入力するさまざまな入力に接続できます。

ミキサー（ライブおよびスタジオ）、ワークステーション / レコーダー、さらにはコンピューターのサウンドカードに直接接続することもできます。

3 入力と出力

1/4" フォン INPUT & IN PAD スイッチ：

ビエゾのフルサウンドを実現する 4.7 メガオームのインストゥルメントレベル。通常の信号レベルは標準のベースギターのそれに近いはずですが（およそ -10dBm / 250mV）。アクティブベース用の In Pad スイッチは、入力を -10dB します。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

1/4" フォン OUTPUT：

アンバランス 1kΩ ローインピーダンスインストゥルメントレベル。この出力は、ハイインピーダンスのギターアンプ（またはエフェクト）とローインピーダンスのミキサーおよびコンピューターの入力に接続できます。ペダルがバイパスモードのとき、出力レベルはユニティゲインです。また、バイパス中も長いケーブルでも信号を損なうことはありません。

BALANCED XLR OUTPUT & GROUND CONNECT スイッチ ()：

バランスド XLR ローインピーダンスアウトプットです。GROUND CONNECT スイッチを ON にする () とグラウンドが接続されます。また、このスイッチを OFF にする () と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

7 SANSAMP セクション

レコーディングデスクや PA システムのミキサーに直接接続し、SansAmp テクノロジーを使って直接録音したり、以前に録音したトラックをリアンプするのも使用できます。Fly Rig 5 の SansAmp セクションでは、真空管アンプのクリーントーンを主にシミュレーションしています。歪みを演出するには、Drive コントロール、Character コントロールを使用するか、Octa セクションの Fuzz、または Boost セクションを使用して歪みを追加します。さらに、スピーカーシミュレーションによりキャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。スピーカーシミュレーションは EQ コントロールと連携して、全体的なサウンドをカスタマイズします。

DRIVE 1 & DRIVE 2：

全体的なゲインとオーバードライブの量を調節します。CHANNEL スイッチで起動し、クリーンとダーティを 1 つずつ、またはダーティとダーティを 1 つずつなど好みで設定することができます。前半 (12 時の位置まで) では、音量とオーバードライブが増加し、その後はオーバードライブが増加します。**注：**SansAmp セクションがオフの場合、どのチャンネルが直前にオンだったかを知るために対応する Drive と Level ノブ (1 または 2) は点灯したままになりますが、コントロールは非アクティブになります。

LOW, MID, HIGH：

スタジオミキシングボードのように、完全な EQ コントロールが可能です。カットするだけのパッシブトーンコントロールとは異なり、これらのアクティブコントロールは 12 時をフラットとしてカット、ブーストします。LOW は 80Hz で ±12dB
MID は 1 kHz で -12dB / 2 kHz で +12dB (MID シフト)
HIGH は 3.3 kHz で ±12 dB です。

LEVEL 1 & LEVEL 2：

SansAmp セクションがオンになっているとき、ユニットの出力レベルを調整します。このコントロールは、さまざまな機器との最大限の互換性を保つために非常に広い範囲を備えています

ヒント：Bass Fly Rig Output を PA に直接接続する場合は、SansAmp レベルをかなり高く設定して、最高の S/N 比を実現してください。

注：SansAmp セクションがオフの場合、どのチャンネルが直前にオンだったかを知るために対応する Drive と Level ノブ (1 または 2) は点灯したままになりますが、コントロールは非アクティブになります。

BITE スイッチ：

Bite はプレゼンスブーストとサブソニックフィルター (20Hz 以下の超低音の雑音をカット) をアクティブにします。歪んだ設定になっているときはサウンドを引き締め、クリーン設定のときははっきりとしたサウンドになります。

8 スピーカーシミュレーション

キャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。スピーカーシミュレーションはEQコントロールと連携して、全体的なサウンドをカスタマイズします。内蔵のスピーカー・シミュレーションは、独立して使用することができます。これにより、コンプ・セクションや外部ペダル（OD、ファズ、ディストーションなど）をスピーカー・シミュレーションに通して使用することができ、フルレンジ・スピーカー・システムやレコーディング・インターフェースに接続するのに便利です。ただし、必要に応じて、スピーカースイッチ（)を解除（)することで、スピーカーシミュレーションを無効にすることができます。

注：スピーカー・シミュレーションの無効化機能は、1/4インチモノラルフォン出力のみ影響します。XLR出力を経由する信号は無効になりません。

注2：接続状況（特にエフェクトLOOP使用時等）によってスピーカー・シミュレーションをオンにするとスピーカーからノイズが発生することがあります。その場合は機能をオフにしてください。

9 EFX セクション

OCTAFILTER:

Minimoog® スタイルのシンセからファンキーサウンドまで個性的なサウンドを演出します。コントロールは相互作用するため、フィルタリングされたクリーン、ファズ、オクターブ、さらにはオクターブファズまで演出可能です。Qが最小のとき、RANGEはハイカットフィルタになります。Mixコントロールを使って、これらのサウンドをドライ信号とブレンドすることができます。更に、COMPのパラメーターを調節することで、キーボードのベースサウンドのようなロングサスティンを得ることができます。

OCTAVE スイッチ:

モノフォニックのオクターブ効果が得られます。QとRangeを下げれば、80年代のクラシックな効果が得られ、上げれば矩形波シンセサイザー風の音色になります。

FUZZ スイッチ:

ファズ効果が得られます。本機に搭載されているFUZZはゲート式のファズなので、ベースからの信号がゲートのスレッシュホールドを下回ると、信号が突然停止します。ファズを抑えるには、Qを下げ、Mixを3時、Rangeを4時に設定します。

Q:

ダイナミックフィルターの帯域の幅と鋭さを調節します。最小では、滑らかで、Rangeコントロールが高音域以上をわずかにロールオフするトーンコントロールのように機能します。最大では、劇的で攻撃的な変化を演出します。

RANGE:

ダイナミックフィルターの周波数範囲を調節します。楽器本体の音量と、ピッキングの強さによって調節します。最小では入力信号はフィルタされません。最大で、入力信号全体がフィルタ対象になります。信号が大きくなるにつれて効果も大きくなります。

MIX:

ドライ信号とエフェクト音のブレンド量を調節します。

最小（7時）：楽器の直接信号（ドライ信号）のみ。

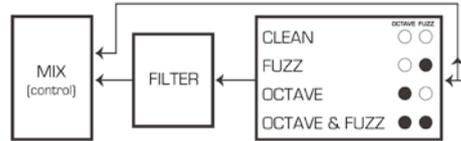
12時：ドライ信号とエフェクト音が50/50。

最大（5時）：エフェクト音のみ

10 使用上の注意

- ◆クラシックなオクターブ・デバイダー・ペダルにインスパイアされたOCTAFILTERは、さまざまなオクターブ効果を提供します。ヴィンテージ・ペダルは、入力信号を2で割り、矩形波（デジタル）信号を出力します。COMPを活用することで、あなたの演奏スタイルに合わせた効果を得ることができます。
- ◆本機に搭載されているFUZZはゲート式のファズなので、ベースからの信号がゲートのスレッシュホールドを下回ると、信号が突然停止します。ファズを抑えるには、Qを下げ、Mixを3時、Rangeを4時に設定します。
- ◆XLR出力を使用してPAシステムのみキサーに直接入力して録音する際はベストなサウンドを得るために、SansAmpセクションをONにしてください。
- ◆本機のコントロールは緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の効果を求める場合にも、すべてを最大に設定する必要はありません。例えばサウンドを明るくしたい時は、HIを上げるのではなく、LOWを下げてみてください。
- ◆本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。
その他エフェクトを使用する際は一般的な使用方法として、
本機の前：フェイザー/バイブ、オーバードライブ、ワウ等
本機の後：ディレイ、EQ、フランジャー、フェイザー（後もおすすめです）、ピッチシフター、リバーブ等
をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。
- ◆バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。

OCTAFILTER セクションの信号の流れ:



CHORUS:

CHORUSは、デチューンした（数セントピッチをずらした）音を原音に重ね、2本のベースでプレイしているかのようなエフェクトを演出します。ノブを右に回すと効果がより深くなります。

10 その他の機能

クロマチックチューナー:



TUNERスイッチを踏み込むことでクロマチックチューナーが起動し、入力信号をミュート、チューナーウィンドウのLEDが点灯します。緑色のランプが点灯している場合は、チューニングが合っています。赤い矢印が出た場合は
上向き矢印=フラットしています。ピッチを上げてください。
下向き矢印=シャープしています。ピッチを下げてください。

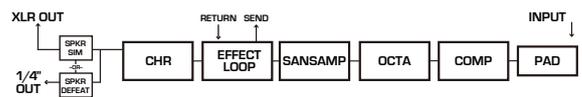
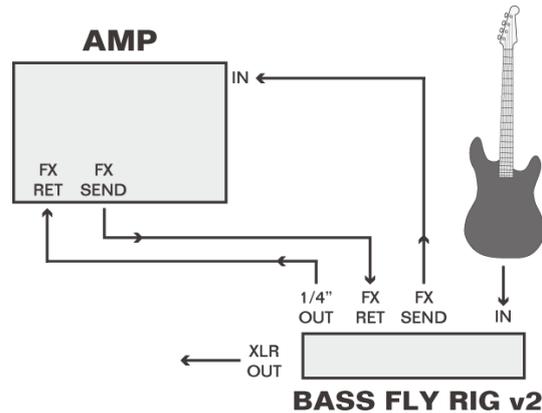
目的の音に近づく、矢印は速く点滅し、チューニングが合うと消えます。その後緑色のランプが点灯しチューニング完了です。

EFFECT LOOP:

SansAmpセクションの後、コーラスセクションの前に外部エフェクターを接続するための端子です。Sendから外部エフェクターのInputへ、外部エフェクターのOutputをReturnに接続します。



4 ケーブル方式の接続図



4 ケーブルメソッドでの使用で、LOOPを使用する事でコーラスの効果を最大限に発揮してクリアな音像を保つことができます。